

平成 14 年 12 月 26 日 熊本日日新聞掲載記事

川辺川ダムの洪水調節計画について

十二月二十六日付の熊本日日新聞「読者のひろば」欄に、「治水計画で定めた八十年に一度の規模の大雨に対しても、雨の降り方によっては操作不能になるということを当然のごとく国が説明した」との趣旨の投稿がありましたので、ご説明いたします。

川辺川ダムの洪水調節計画は、球磨川流域に大きな被害を出した昭和四十年七月洪水の実際の雨の降り方をもとにして、治水計画の目標である八十年に一度の規模に降水量を設定して計画を定めています。

昭和四十年以降、平成十三年までの三十七年間の実績洪水を治水計画の目標である八十年に一度の規模に設定しても、すべての洪水について、川辺川ダムの洪水調節容量の範囲内で調節が可能であり、人吉地点での流量を約四千立方メートルまで低減させることができます。

「操作不能になる」ということはありませんので、ご安心ください。

このように、川辺川ダムは洪水を調節することにより、その下流域で河川の水位を下げ、洪水被害を大幅に軽減する抜本的な治水対策のために必要不可欠な施設です。